

IA TSSのポテンシャル — 国境を越える価値を生み出す —

永田潤子

Junko NAGATA

社会の問題解決アプローチは、ハードパス・アプローチとソフトパス・アプローチに大別できる。一つは、技術革新による新しい製品開発やサービスによる「技術的問題解決(ハードパス・アプローチ)」であり、もう一つは社会の構成員の意識やライフスタイルを転換することによって達成される「価値的問題解決(ソフトパス・アプローチ)」である。

ここ10年、交通安全分野においても、ドライバーの心理や特性等に関する研究も増え、さらには、自動車業界においても安全性を高める技術開発だけではなく、安全運転に関する知識の教育や普及に力を入れており、さまざまなソフトパス・アプローチによる成果が生まれている。

現在、研究調査のためインドネシアに滞在している。経済成長とともに交通量も著しく増加している中で、日本車の性能と安全性の高さを耳にする機会が頻繁にあり誇らしい。しかし、例えばバイクの三人乗り・四人乗り、また、ヘルメットの未着用等の光景を目にするにつけ、交通ルールや安全運転への教育や知識の普及等の必要性を強く感じる。日本製の車両が多いだけに、これまで日本が蓄積したソフトパス・アプローチによる問題解決手法や成果を提供する必要性と責任を強く感じている。

インドネシア等アジアの具体的な地域やコミュニティを対象とし、多様な関与者(行動者)を巻き込み、宗教上の習慣や文化を理解しながら開発を行う必要性は極めて高く、日本の知見が新しい地域やコミュニティで成果を生み出すことで初めてその普遍性と持続可能性を得ることになるのではないだろうか。

ソフトパス・アプローチ開発のイノベーション過程を、吉川弘之氏の社会技術戦略論にヒントを得て整理すれば、①まず、社会や自然を観察し地域のニーズや社会的な問題を把握する「観察型研究者・人材」からの課題提示がなされ、②それを受け、問題解決のための方法論や制度設計を考え提案する「構成型研究者・人材」により解決の方向性や具体的方策が示される。③さらに、これら解決策の知見や助言をもとに、専門知識に裏付けられた取り組みを行う「行動者」が、社会実験やパイロットプロジェクト等の諸活動を通じて社会や自然にインプットを与え、④行動者と研究者等はそのプロセスや結果を共有しながら議論するというループを重ね、試行錯誤することで成果が得られるものであろう。

IA TSSは、「観察型研究者・人材」「構成型研究者・人材」「行動者」の集まりであり、IA TSSフォーラムはこれまでの活動を通じ、アジアの国々に多様な行動者のネットワークを持っている。

国境を越えた新しい価値を生み出す交通安全の素晴らしいプラットフォームとしてのIA TSSのポテンシャルの大きさに身が引き締まるとともに、言うは易しに留まらずに自らが貢献する方法を模索する日々である。

大阪市立大学大学院創造都市研究科准教授／原稿受理 2012年10月9日